

本時の展開

(1) 本時の目標： ごんの心情について考え,自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時の評価規準：【思】文章を読んで感じたことや考えたことを共有し,一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付くことができている。

時間	学習活動・予想される子どもの反応	☆指導上の留意点 ◎支援	評価規準(評価方法)
課題把握	前時までのふりかえりを行う。 学習課題を知る めあてを板書する。 第5場面を音読する。	☆前時までのノートをふり返りに活用する。 ☆音読は1文を全員で音読し,その後,その1文について自分の考えをぶつくさ言う。「ぶつくさ読み」を行う。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ◎ め ごんの「気持ち」は変化したのか。 </div>			
自力解決	兵十と加助の話聞いた後のごんの気持ちを考える。 1～4段落の今までのごんの行動を踏まえて,その思いがわかる文章を取り上げて,ノートを書く。	◎「へえ,こいつはつまらないな。」 と本文に書いているが,その言葉以外に1～4段落までの文章をもとに,ごんの思いを考えさせるよう声掛けを行う。 ◎ごんの気持ちの変化を書き表せられるように声をかける。 (2段落では「悪いことをしたな」という後悔の気持ちだが,5段落では,持っていつていることに気づいてほしい。)	【思】叙述に基づいて,自分の考えをまとめることができる。 (記述)
集団解決①	グループで話し合う(4人班) 相手の意見の考えや疑問を基に話し合う。	☆グループ設定として,班長からの発表。その後は班長が中心となって話し合いを進めていく。 ☆自分の意見がなかなか書けない児童の中に他者の意見をノートに記入したい児童も複数いるので,容認する。	
集団解決②	全体で話し合う。 【ごんの思い】 「償い」 → 「1人ぼっちの兵十に自分を重ねている」 「後悔」 → 「友達になりたい」 「さみしさ」に気付いた。 「兵十と関わりたい」 「ごんの気持ちの変化があったかどうかについて考える」	☆叙述をもとに,ごんの思いを答えてほしいので,話型とし,「○(番号)の△△の文章からごんの思いは□□だと思います。」のような話し方でスタートさせる。 ☆話し合いの流れを止めないように,教師は聞き役になりながら,板書を行い,意見を整理していく。 ☆教師の発問「神様やと思ってつりあわないと思ったなら,くりを持っていくのをやめたらいいんじゃない。」 ☆後悔の気持ちを超えた思いがごんにあったんじゃないか。 ☆後悔や償いの思いはどの場面であったのか。	【態】話し合いの中で,一人一人の感じ方や考え方の違いに気づくことができる(発表・記述)
ふり返り		B・自分の意見は変化したと思います。○○さんの「○の文から,最初は後悔の気持ちでくりを持っていつていたけど,次第に兵十と仲良くなりたいたから」という意見に納得しました。ごんは兵十のために持っていつていたが,自分と似た兵十を見て,さみしさをうめるために持っていつていたのかな考えることができました。 B・自分の意見は変化していないと思います。○○さんの,「○の文から,ごんと友達になりたいという意見に納得しましたが,ごんの自分のせいで,兵十を悲しませたという思い込みの気持ちはごんの中で一番大きい気持ちだと思う」という意見を聞いて,ごんの兵十への思いはやっぱり変わっていないと思いました。 A・自分の意見は変化したと思います。○○さんの「○の文から,後悔の気持ちから,自分のさみしさを知ってくれる存在なのでは」という意見に納得しました。話し合いを通して,ごんは気持ちが変わっていく度にごんの心が成長していつていることに気付きました。作者はごんの行動や思いの変化を読者に伝えたかったのかなと思いました。	【思】他者の意見を踏まえて振り返りをし,自分の考えを深める内容を書くことができる。 (記述)